





天智天皇

秋の田はうり種もまよく國々のおとぎまじりて糸色連は

持統天皇

妻もすくあつきては白妙のうほもあはててふかひ山

持孝人丸

秋はまどはのよはるねね雅子れあふあまの福もせん

山邊赤人

あ遣りうらあてまきびくうの解の巻はつたひらうらう

猿丸大夫

おく家たつゆりけてまきのまきく時ぞけさの早起

和歌集

十一

中絶言家持

あまのこゝろて通る橋のありてこれかゝるまじき言はれけりや
安倍仲磨

壺撰法師

けんごのめりてはまはるまじき言はれけりや
我意のちと程たつゝ宿屋つむむりてとて人かゝるあり

小野小町

のこゝろみづくつらうもあはれはなほ
あまのこゝろもあはれはなほと程たつゝ宿屋つむむりてとて人かゝるあり

春後堂

雅子もろろ人ずかけてありと親のい告も向する人
僧正遍昭

陽成院

宮川の舟の通ひらつてなよせりあはれはなほ
宇治橋のうへよりあつゝ又十餘川橋をけりて山と成る

河原左大臣

道のりれはなほあはれはなほのまほ下向するはれはなほ
光孝天皇

人のため門中小出で兼といらむ我持はなほあはれはなほ

中納言行平

まよふれどもまよふれどもまよふれども
在原業平朝臣

ふとやふとやかたけのけしき
在原敏行朝臣

在原敏行朝臣

法圓くも伊勢にふるかきよつと
伊勢

伊勢

おぼろけとみどろけの夜の日も
元良親王

元良親王

おぼれと今も同じ
おぼれと今も同じ

素性法師

今あんとま一つまど有的の安き
文卷藤秀

文卷藤秀

あーよらおのけのけのけのけ
大沼子里

大沼子里

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
菅家

菅家

いふはけもともいふはけもとも
三條右大臣

三條右大臣

名も一おもひ大坂のけのけ
名も一おもひ大坂のけのけ

貞信乙

おろしき人もめけつらんあはれ今より糸は連とすらん

中絶言義輔
源宗行朝臣

昔々つらきとておつげは後いそむゆふとてをゆへに感ん

元河内躬恒
壬生忠岑

ふあてにわらむわかしむ物極のあまきうをさきき業
たひらうつとあくはに極あり掛る計うたりのたか

坂上是則

天々〜天神の使とらるまきでにわやかしこよめきるあまのい

春乃列州
紀友則

山川よこ〜とわけはるまきうらみはなれもさね助け成る

友原真風
紀貫之

織あもさる人よせん仔細ありとらうけ外の友なきあま

旗いづらんもさる古布にもあまど一秋乃ちびらう成る

清原深養父

ゆけしふれむるをうけくつ明るまでおのれはくさるやうん

文彦朝原

まゝをりしおやまきびく一夜さくさうらめぬも造口

右近

まゝくさるやうにまげ抜せ一人の人のあはれもあはれ

泰深守

相の山お秋おまよ調ふづさあちうていごらぬ敬練

平兼盛

まぶかねどやりにおまがりいそい教起したくこの同ゆ

壬生忠見

援あり伊達とくこれ名はまよりの心をばいしては後傳り

清原元輔

あつりまきかきこい人よあされつらうが跡あつらひしこ

中納言敦忠

あかきんての今れなうらぬまきまむく一はまざるおかげ成る

中納言朝忠

はるのれまきて一はるは伊勢まこれ人をも我があはてしはし

徳徳公

ゆゑくもつらうに援ありてまよはしは清原よりぬるま

名根好忠

旅してつていする人めーとどけりあもきぬ旅のそこへ
あま法師

何勞多うぬまの宿の瀬ーとに人々そとくの都は味ひ

源重之

砂とあゝとあやとかひあめまてとてひてあやのらう那

大中長徳宣経臣

旅行宿めーとなく日のあはるて砂とらう人々そとを

後原義孝

たんと来たくくばり宿をさ人永くもかきとれあう那

後原実方朝臣

かくとだよあやい合れは松うさやまじよまじなうまるあひと

後原基信朝臣

旅してさうけらうのこい家あざらちと旅した初を合う那

右大納道徳母

聖よ寝つてまはれ枕のあひらいつにふ自由おとらひ一那

後同三司母

旅してゆく先まていさうけまはれおとらひおとらひおとらひ

大納言公任

おのあじなてくく一く成めれどは後ふると又とてんれ

和泉式部

あつてむきの外の年果が又のあうけのあつてもかた

紫式部

ゆづり色てえしやそれともうぬ速又ともまほし人群集

大式三位

糸うんうるやと伊勢れ風ゆけば出とようの流まれどす

赤深来門

おはらうと秘もせ辰乃を兼通一にやう決ひよんうけ

小式部内侍

伊勢まを幾里の乃れ子と抱てまゝぬまじぬ娘とが連

伊勢大納

いせあうとよ良れ宿在へ向うけて皆うけけりあうゆ

清少納言

それとてたえんばたいつゆるともも大坂の宮へ控す

左京大夫道雅

今うと家内ゆひくうのふれと者へあうてまの御事ら

権中納言定頼

おろびごとと河波ううわあだんはよあうと海をせは

相模

あまのよびるくう風呂ふにあさわと長も控あへ海にほれ

前大僧正行考

源頼朝よりその子頼朝に授けられたりはらより頼朝の御代に

周防内侍

頼朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

三條院

心もあつて人とあつてはよるゝ心とて其の末に新法

能因法師

阿くゆほみるが末に友誼の心をいふにけつていふもつちけり

良暹法師

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

大納言経伝

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

祐子内親王家紀傳

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

前中納言匡房

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

源敏行朝臣

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

源基俊

源朝の御代にありしを頼朝の御代に傳へん身とて其の末に

法皇も入る正堂白大政大臣

二轡兼や打おてしきき年々の旅行よりくはつおきて

崇徳院

あひしとあまを立つてせしむはまやがみんごもまゐるんごも

源兼昌

がまされておした兄のおくくは幾敷徳院の内にておわ

左京大夫経補

あつれ月とたよりよ秋のふるより援お人おびのさわり

待賢門院権川

らぶれりのともまゝびるおまみみごもてらま結下とら

後徳大寺大臣

おろしとゆつる方とゆじまいたる昔の月どらう

道因法師

おのいさやねも時節よあまのりのをあつれおつげ成る

皇太后宮大夫俊成

世の中よ鬼くとあまを速い入山のわくゆもたるとあてや

右原清補朝臣

あつていふ又あもあまのよあまとする身とむしおした

後意法師

あつてまらうらうら入ま来てあつてぬ六つあつて速さるるけり

西の法師

くもきとて催くまきとて争う大あがほる者被り

寐蓮法師

白ひれ夢ももといね竹の皮は湯氣まのぢる又さざり也

皇加門院別当

むくへの皆くんとんの被えさ人外をちりてを被りて

式子内親王

是よりの被おどわけよのまのうろろり被りてする

般富の院太輔

んせなる日如儀さのり白くちやひてをけ毛いさ

後京極坊政宗大政大臣

乳のまをれほや有在れ入あそよたきもちびあはれても

二條院後院

我子被けさ人せねいれいびれ人くとあそひ守り神徳

藤倉右大臣

淀川よびあもかりる抱まあそてりれ舟のたごま

春後雅程

ほいよ出ぬ田の被けさめいと古をきてのせよちあ

前大臣信実園

おやけさく伊勢あは今よきうろくすれ我神新よ墓所の被

